

東区幼保小連携推進協議会便り



令和3年度第2号 2021.10.1 発行 東区幼保小連携推進協議会代表者会

8月26日(木)、第2回東区幼保小連携推進協議会を、東区としては初めての試みでZOOMによるリアルタイムオンラインで行いました。昨年の新型コロナウイルス感染症拡大以降、様々な研修会や会議がオンライン開催で行われていることもあって、多くの園、校にオンライン参加環境が整備されており、68施設から104名の方に参加していただきました。終了後のアンケートの回収率は約85.3%で、各項目に丁寧に御回答いただきました。また、都合により参加いただけなかった園・校のなかからも、資料を御覧になったの感想や今後に向けてのお考えなどについて回答いただいています。皆様の御理解と御協力に心より感謝いたします。

今号では、北翔大学 教育文化学部 教授 礒島年成先生による講話の概要と、アンケートの御解答から皆様と共有したいコメントや次につながる御意見などをまとめました。参加いただけなかった皆様にも当日の雰囲気や礒島先生の温かい語りの様子を感じていただき、東区の園・校が同じ願いに向かって幼保小連携・接続を着実に進められるよう、できることから取り組んでまいりましょう。

◇ はじめの挨拶、講師紹介 ～ 札幌小学校 神谷 かほる校長

幼児教育スタートプラン～今まで大事にしてきたことが形になった。今後の学びの橋渡しになればと願っている。

1. 講話の概要 (講師:北翔大学 教育文化学部 教授 礒島 年成 氏)

「スタートカリキュラムを通して、幼児期の育ち(10の姿)を踏まえた円滑な接続について考えよう」
・東区幼保小連携推進協議会便り No.1～幼保小の連携にとっても有効。情報をどう具現化するかが大事である。

① 今、教育の変わり目である

よりどころとなる資料(学習指導要領・幼稚園教育要領・保育園こども園保育指針)を改めて確認することが必要～

👉はしがきを見るのがポイント!!

② 「基本の目」「長い目・広い目」をもつことが大事である

③ それぞれの場で求められていること

幼保の教育～ ①幼児教育において育みたい資質・能力を明確にする。
②幼児期の終わりまでに育ってほしい力を明確にする。

👉ココが難しい③小学校の教師と共有するなどの連携を図り、
小学校教育との円滑な接続を図る

小学校の教育～ プログラミング教育、キャリアパスポートの活用、性別によらない名簿、
中学校との連携など・・・。

遊びを漠然ととらえるではなく
視点をもって!=基本の目
小学校の生活にどうつながっているかという視点=長い目・広い目

④ 幼保で求められている資質・能力とは

- (1) 知識及び技能の基礎～「何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるか」
- (2) 思考力、判断力、表現力等の基礎～「どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか」
- (3) 学びに向かう力・人間性等～「心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか」



⑤ 小学校で求められている資質・能力とは



- (1) 知識及び技能～「何を理解しているか、何ができるか」
- (2) 思考力、判断力、表現力等～「理解していること、できることをどう使うか」
- (3) 学びに向かう力・人間性等～「どのように社会・生活と関わり、よりよい人生を送るか」

⑥ 資質・能力からみた幼保小の接続



- ・生活科だけが「幼児期に育みたい資質・能力」と重なっている
＝スタートカリキュラムが生活科を中心に構成されている意味。
何を育てたいか？教科の枠を外して。

⑦ 生活科を中心としたスタートカリキュラムは幼保小のつなぎ役

- ・学びが、幼児教育⇒生活科(低学年)⇒総合的な学習の時間(3年生以上)につながっている。

⑧ スタートカリキュラムを通した幼児期の育ち(10の姿)をふまえた円滑な接続について

幼保では・・・小学校までの姿を思い描くために。

・教科書・解説書(体育などは特に参考になる!!)の活用、HPの活用

☛**どう、教えているか?どこが違うか?を知ることが大事!**

小学校では・・・子どもの思い、願いを重視するために。

・学校探検などで学ぶ場所に気付かせていくことが有効、
中休みの時間に幼児期に学んだものが見えてくることが多い。

☛**子どもの思い、願いを重視した子ども主体、体験重視、探究の学びになっているか!**

- ・『札幌市学校教育の重点』の一読を!
- ・幼保小の連携がますます重要視されている。連携する意味や目的を考え、「いつ、どんな内容を、どんな方法を」で連携するのか、いろいろな発想から生まれる連携の方法を互いに交流してすすめていくことが大事である。

◇ 感想や質問 ◇

～札幌小学校 神谷校長先生～

幼保小の連携で見えてきた子ども達の素敵姿を見落としがちである。

学びをみとるコツは??

磯島先生⇒どんな言葉を掛けるか。評価の前に共感を。会話の中で聞き取ったことを返す。

子どもを理解することが大事である。

～中沼小学校～熊谷校長先生

コロナ禍で直接学校に出向き様子を伝え合うことができない状況だが、今回オンラインで東区の多くの小学校、幼稚園、保育所、認定こども園につながりができた。分からないことは電話でやり取りをするなど方法はあるので、今回つながる方法がもてたことは良い機会だった。準備が大変だったと思う。お疲れさまでした。

◇ 謝辞 ～ 認定こども園せいめいのもり 司馬 政一園長

幼保小がしっかりとつながっていくことが大事である。

現場が実際にどうなっているのかを互いに見合うことが、今後さらに重要ではないか。

2. アンケートより



(1) 自園、自校の取組に生かせることは？

要領、指針に示されている「資質・能力」が実際の保育の中で、子どもの姿、遊び、環境のどういったところにつながるか見えてきた。保育計画の改善に生かしたい。

「基本の目」「長い目・広い目」を持ち、日々の保育を実践していきたい。

どの園も要領、指針を基にしている。小学校教員も要領・指針に目を通すことが大切である。

子ども主体の遊びの経験が小学校の生活科につながっていくことを知った。「10の姿」について園内研修等で職員同士で話し合いを深めたい。

入学に当たって求められることは、「粘り強さ」「自分で調整できる力」と感じた。園生活の中で、こうした力を身に付けていけるよう関わっていききたい。

スタートカリキュラム、生活科の重要性を再認識した。今後見直していく際の手がかりをいただいた。身に付けさせたい力を焦点化・具体化していくことから始めていきたい。

保育者自身が、近隣小学校のHPや教科書を見て、小学校をイメージすることで、子どもたちや保護者に小学校のことを伝えられる。就学への安心感につながられると思った。

「今、教育は変わり目である」という点については、学校全体の取組に生かせる面が大きい。求められている「資質・能力」について幅広くおさえた教育活動を進めようと思う。

幼小の円滑な接続のために、スタートカリキュラムが大切であり、生活科を軸とした学びを展開していくことが重要であると実感。本校の先生方にしっかりと伝えていく必要性を感じた。

2月の一入入学の資料（入学のしおりなど）を近隣幼稚園・保育園に送付する。

できることからはじめよう！！

(2) 講話についての感想、磯島先生への質問など

幼児期に学んだことが小学校での中休みに現れるという話が印象に残った。園では、やってみたいことを見つけて考えながら楽しめる子と、何をしたらよいか決められずにいる子との差を感じている。幼児期からいろいろな物に興味をもち、創意工夫して学校を楽しめるよう、日頃の子どもとの接し方を見直す機会になった。

「子ども主体」「体験重視」というキーワードが、小学校の低学年はもとより6年間の指導に共通して大切にしていきたいと実感した。

生活科を中心として、一人一人の児童の思いや願いを見取り、支援していくことの大切さを改めて感じた。

小学校の内容を先取りすることが重要なのではなく、いろいろなことに興味や関心をもって、子ども自身が取り組もうとする体験をたくさんしておくことの必要性を再認識することができた。これまでの取組は間違っていなかったと励みになった。

「資質・能力」について小学校側、幼保側、両方の考えを示していただき、大変分かりやすかった。

「札幌市学校教育の重点の活用」「小学校教科書の活用」についてのお話が印象的だった。交流する際の「基」をもつことが大切だと感じた。

（磯島先生の）子どものことが好きで、理解し受け止めたいという気持ちが伝わってきた。幼保小それぞれのカリキュラムはあるが、育てたい子どもの姿はみんな一緒だと改めて感じた。

「基本の目」「長い目」「広い目」で一人一人の子どもを見る大人のまなざしの質を高めることが必要ではないかと感じた。

幼児期からのつなぎとしての低学年が、探究的な学習の姿へとつながっていく大切な学年ということを変更して理解できた。

気付かずに子どもたちを自分たちの物差しで評価している可能性があると感じた。どのような声掛け、接し方が大切なのか、良い例と悪い例を具体的に教えてほしい。

気付いたこと、感じ取ったことを園内、校内、関係者で共有していきましょう！

休み時間の中にも10の姿につながる子どもの姿が広がっていることにまでは、目が向かなかった。学習時間だけでなく、生活全般でも幼児教育を踏まえて子どもたちの活動する姿を認めたり励ましたり、時に引き出したりして関わっていくことが大切と感じた。

(3) 今後の東区幼保小接続の充実に向けて～皆様からの御意見、アイデア

★第1回のアンケートによる書面交流の情報は、小学校や他園の様子や取組が分かり参考にできる。

★オンラインでの協議会でも、グループで情報交流の実現を...

～各幼児教育施設、小学校が保育・教育で大切にしていることや子どもの姿、具体的取組の交流

～スタートカリキュラムの資料交換+情報交流 ⇒ 幼保の先生の意見をいただき一緒に作成

～小学校教育の前倒してはでない幼児教育の在り方

★ZOOMでも、研修や学び合いができることが分かった。(参加しやすい。)

～今後も、幼小接続に関する講演会など全体研修を実施してほしい。(本当は対面が望ましいが。)

～近隣園・校との連携や情報交流も ZOOM や電話を活用し、直接やり取りするとよい。

(同様のコメント多数。オンライン学校訪問、気になることを質問し合う、引継ぎ、など)

★就学に向けて、入学前の園での様子を参観+家庭環境なども含めた引継ぎでの情報交換の充実

★コロナ終息後は、是非直接会って!

～園児、児童の施設訪問や交流...育ち合い、就学への期待感と安心感の育み

～授業参観、保育参観を通した、教職員の意見交流や学び合い、相互理解、

幼小接続のイメージの具体化、共通化

★幼保小連携推進協議会に参加してみて、とても有意義な会であることを再確認した。学級担任(低学年、年長など)が参加できることは重要。幼保小連携推進協議会の内容や資料が広く周知されるとよい。

～ コロナに負けない幼保小連携 ヒント集 ～

◎交流や連携できそうな園、学校を探したい時は、「東区幼保小連携推進協議会名簿」を活用しましょう。

⇒名簿順は、住所をベースとした地区ごとになってあります。同じ地区の園、学校を探してみましょう。

◎近隣施設と連絡を取りたい時に、連携担当者を指名して電話をしてみましょう。

◎複数で情報交流や打合せをしたい時は、ZOOM ミーティングを活用してみましょう。

⇒お互い、ミーティングしやすい時間帯を確認しておく。

ミーティング時間を 30 分間、1 時間など無理のない時間設定にしておく。話題は、シンプルに。

慣れてきたら、写真や資料などを画面共有して、子どもの様子や日常生活(保育や授業など)の様子を伝えあうことにも挑戦。

◎園児、児童同士が、間接的にでも「交流」できる機会をつくる。

⇒手紙のやり取りや ZOOM での対面などで、遊びや生活の紹介、学校案内(探検)など、

< 第3回 東区幼保小連携推進協議会 幼保小連絡会 >

日 時 : 令和4年1月17日(金) 15:00~16:45

開催方法 : 電話連絡(会場参集はしません。)